

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立小岩高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 事務局長、教員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主任教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、
主幹教諭(進路指導担当) 主幹教諭(3年) 主幹教諭(2年) 主幹教諭(1年) 計9名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長、近隣中学校校長、近隣自治会長、近隣消防署所長、近隣警察署生活安全課、
近隣中学校PTA役員、地域有識者（民間企業）、同窓会、計10名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - ① 第1回 令和4年6月24日（金）内部委員9名、事務局2名、協議委員10名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画説明、本校の現状と課題等説明、意見交換
 - ② 第2回 令和4年11月11日（金）内部委員9名、事務局2名、協議委員10名
教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に関する意見
学校評価アンケートの内容検討、協議
 - ③ 第3回 令和4年2月7日（火）内部委員9名、事務局2名、協議委員10名
教育活動に関する報告、学校評価結果の報告、意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - ① 第1回 令和4年6月24日（金）内部委員2名、協議委員8名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価の課題確認
 - ② 第2回 令和4年11月11日（金）内部委員2名、協議委員7名
今年度の学校評価の観点・項目・内容・実施時期の検討、回収率向上の方策検討
 - ③ 第3回 令和4年2月7日（火）内部委員2名、協議委員9名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校生活への満足度」「学習指導」「生活指導」「進路指導」の観点で実施する。

- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・令和4年12月	全校生徒	915人
・令和4年12月	保護者	492人
・令和4年12月	近隣地域住民	88人
・令和4年12月	教職員	56人

- (3) 主な評価項目

学習指導、進路指導、キャリア教育、生活指導、家庭・地域との連携
いじめ防止

- (4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）

- ・生徒は小岩高校に入学してよかったと思っている。（ ）は昨年度。
生徒 91% (92%) 教職員 95% (98%) 保護者 92% (94%)
- ・小岩高校の生徒は生き生きと学校生活を送っている。
生徒 94% (96%) 保護者 93% (91%) 教職員 96% (100%)
- ・学校は落ち着いて授業に集中する雰囲気である。

- 生徒 68% (82%) 保護者 84% (83%) 教職員 88% (89%)
- ・授業は進路希望実現に必要な学力を身に付けるのに十分な内容である。
生徒 82% (78%) 教職員 75% (75%)
- ・補習、講習は進路実現のために十分な量と内容である。
生徒 80% (74%) 教職員 77% (72%)
- ・学校は担任や進路部の先生からの情報提供が豊富で、生徒の相談にもよく応じている。
生徒 90% (88%) 保護者 76% (75%) 教職員 91% (88%)
- ・生徒一人一人の個性や適性に対応した進路指導を行っている。
生徒 85% (73%) 保護者 74% (74%) 教職員 93% (88%)
- ・学校は進路の実現のために、生徒が主体的に高い意欲をもてるような指導を行っている。
生徒 78% (71%) 保護者 76% (61%) 教職員 77% (75%)
- ・学校は生徒が学校生活に集中し、落ち着いた学校生活を送るために十分な指導を行っている。
生徒 87% (86%) 保護者 84% (84%) 教職員 79% (88%)
- ・生徒の服装や身だしなみに関する指導は十分である。
生徒 87% (83%) 保護者 84% (71%) 教職員 52% (54%)
- ・学校は社会の一員としての態度を身に付けるための指導を十分行っている。
生徒 86% (79%) 保護者 81% (80%) 教職員 75% (70%)
- ・学校は遅刻指導をはじめ、規則正しい生活習慣に関する指導を十分行っている。
生徒 92% (94%) 保護者 90% (88%) 教職員 86% (81%)
- ・学校は、いじめ防止に積極的に取り組んでいる。
生徒 87% (86%) 保護者 87% (81%) 教職員 100% (98%)
- ・生徒は体育祭や文化祭、また合唱祭や球技大会などの行事を主体的に取り組んでいる。
生徒 94% (92%) 保護者 93% (89%) 教職員 91% (88%)
- ・小岩高校では部活動が充実している。
生徒 97% (97%) 保護者 93% (92%) 教職員 100% (100%)

*生徒の評価は、3学年ともほぼ変わらず、高評価になっている。前年度評価の低かった学年も今年度は他学年と同様であり、今年度は学年による格差が無くなった。

総じて保護者や地域の評価は例年並みに高く、学校の運営等に関して概ね好意的に捉えられていることがわかる。

本校職員の評価が、昨年厳しい内容になっていたが、今年度はどの項目も高い評価になっており、コロナ禍の中で、様々な工夫を行った様子が感じられる。

(5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

- ・学習指導において「落ち着いて授業に集中する雰囲気である」項目については、昨年度並みに生徒の評価が高かった。この評価結果から、コロナ禍であっても生徒は普段通りに学習を行う環境が保たれていることが分かる。引き続き授業規律を守り、学校全体で意識を徹底し、学習環境を整え、落ち着いた環境の中授業に集中することで、学習の基礎が確立すると思われる。今以上に教員も生徒も一つ一つの授業を大切にす姿勢を心掛けることを継続していく。その姿勢を土台として、大学等進路希望実現のための授業内容のさらなる充実に繋げていきたい。また今年度も全学年による朝学習の実施、朝及び放課後の補習・補講の実施を行った。しかし勉強合宿はコロ

ナ禍のため、行うことができなかった。来年は実施できることを期待している。自習室への参加生徒も一定数出てきていることから、これらの内容をさらに進化・発展させることが求められるところとなっている。

- ・コロナ禍に対応した学校行事を行うことができ、体育祭や、文化祭、合唱祭を実施できたことは生徒にとっても大変充実感を味わうものとなった。またこれらの行事や部活動は生徒が主体的に企画・運営し、積極的に参加していると感じている。行事・部活動と学習の両立について、教員の生徒への励ましや声かけ等、どちらかに偏ることなく、バランス感覚を大切にしながら、行事や部活動の一層の充実・活性化と学力の向上を今後も維持し、さらなる高みを目指していく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・中学校管理職、地域の方、保護者、企業経営者など様々な立場の方から、多様な視点で意見をいただいた。肯定的な意見も多くいただき、教員のやる気にもつながっている。これを励みとして小岩高校の一層の改革を推進する。
- ・地域の方々が本校に対して、強い関心をもって見ていることがわかった。地域に応援されていることの大切さとその期待に応える学校経営が求められている。
- ・本校の教育活動の改革方向が少しずつ地域からの信頼の向上につながっていることを再確認した。

* 委員からの具体的な意見

- ・明るく活気あふれる学校だと感じている。
- ・自転車のマナーについて、朝は改善されたが下校時はまだ良くない。
- ・校舎の避難所としての役割を期待している。
- ・もう少し、地元自治会、地域と連携が取れるとよい。
- ・より地域の誇りとなる学校になるため、進路指導は大切だ。
- ・中学生と部活動や生徒会活動等の交流を個人単位でなく、部活動単位で行えるとよい。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・生徒の身だしなみの改善、指導体制の強化
- ・遅刻指導等、生活指導の一層の充実
- ・国際理解教育の一層の充実
- ・交通ルール・マナー等、自転車指導の継続
- ・他校種間の交流の充実
- ・防災の地域連携

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・行事や部活動状況などに関する保護者への情報発信を活発化することで（HP、通信等の活用）、学校への関心を高め、保護者との連携を深める。そのために保護者が学校とコミュニケーションを取れる機会をさらに増やす。
- ・防災活動等において、地域や保護者との連携を深め生徒会やボランティア委員会による地域防災訓練等への参加を通して、学校への理解を促進し、地域に信頼される学校づくりを進める。

（2）学習指導

- ・新学習指導要領の実施をうけ、個別最適な学びや協働的な学びを意識した授業の工夫を図り、自ら考え問題解決を行う力を培う。
- ・授業規律の一層の確保に努め、学習に専念する雰囲気醸成する。

- ・基礎・基本の定着を図り、生徒の興味・関心を高め、生徒の目線に立った授業づくりを図るとともに、受験のための勉強の仕方についても教え、進路実現に向けた学力の向上を図る。
- ・学力スタンダード委員会を活用し、学力の状況を分析・把握し、各教科に学力の状況に応じた授業改善を図る。
- ・進路意識を早い時期からもたせ、学習意欲を高め、キャリア教育の充実を図る。
- ・一人1台端末の利用を踏まえ、ICT機器等を活用した授業や、オンライン授業の充実を図る。

(3) 特別活動

- ・社会規範やルールを守る姿勢、人間関係形成能力の向上を図るために、部活動を活性化し、指導を一層工夫する。
- ・部活動や行事を活用し、自分の役割を理解し、責任を果たすことの必要性への理解を深める。

(4) 生活指導

- ・頭髪・制服などの身だしなみの徹底、自転車の乗り方に関する指導について、全教員で組織的に強化して取り組む。
- ・完全制服化に伴い設定した「ドレスコード」を基にして、身だしなみに関する生徒の意識を向上させる。
- ・生徒部及び学年や当番の教員が、朝の立ち番指導を行い、挨拶指導や駐輪指導と共に、自転車事故の防止に努める。また、生徒会による自転車登校マナー向上キャンペーンを年3回以上実施する。

(5) 進路指導

- ・進路指導部が中心となって「30才の時になりたい自分」を考える取り組みを推進し、1学年から3年間を見据えたキャリア教育を体系的に推進する。
- ・総合的な探究の時間や海外からの留学生等との交流会を活用し、国際理解教育を推進する。
- ・模擬試験等を進路指導部で進行管理することで、生徒の学力の伸長状況を継続的に把握し、計画的に個々の生徒に応じた進路指導を行う。
- ・長期休業中の講習のまとめ、勉強合宿等の進行管理などを行い、計画的、組織的な進学指導体制を構築していく。

(6) 健康・安全

- ・新型コロナウイルス感染症防止対策を学校全体で組織的に実践する。
- ・校内美化を進め、学習の場にふさわしい、落ち着いた環境づくりを図る。
- ・教員間やスクールカウンセラーとの連携を密にして、生徒の精神的な健康管理を図り学校全体の教育相談体制の強化を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が改善されたと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない
10	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 なし 企画調整会議 なし

8 その他

- ・学校評価アンケートに見られる授業に関わる評価が、昨年に比べ改善された。マスク端末の導入により、生徒が主体的に学べるような様々な工夫で対応したことの結果であると考えられる。しかし、この結果に安心することなく、生徒の高い進学思考に応えられるよう、教員の意識を高め授業の改善と工夫をさらに深くし、生徒一人一人の進路実現に向けて組織的に取り組む必要がある。アンケートでの評価や協議会で指摘を受けた自転車通学時における振る舞いについては、交通ルールおよびマナーの

遵守に向けて、現在取り組んでいる毎朝の立ち番や学期毎の全体集会を続けながら、指導を徹底し、改善に結びつけなければならない。このことは危険防止だけでなく、本校の評価にも大きく影響している。また、部活動と勉強の両立の方法等、具体的な方法を生徒に提示し、学習の手立てを示す必要がある。1000名を超す全校生徒が在籍する大規模校であるが、全体的に落ち着いた雰囲気の中、地域から良い評価や温かい応援を得られるようになっている。学校運営連絡協議会委員の皆様からも、高い評価をいただいているので、本校の強みを最大限に活用し、今後は進路実績の面で、さらに高い成果を挙げられるようにすることが次の目標である。